

令和二年度

卒業証書・学位記授与式 式辞

(山村学園短期大学)

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

春の若葉・夏の新緑・秋のどんぐり・冬の雪景、四季折々の美しくやさしさあふれるキャンパスで学んだ二年間でした。

本日は、学校法人山村学園より岡理事長 山村正巳まさき本部長にご臨席をいただいております。

皆さんは、「SDGs」(エスディーズ)という言葉を知っていますか？ 世界は貧困、人種差別、環境破壊など、様々な問題に直面しています。このような地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国際連合が加盟一九三カ国の達成を目指す、二〇三〇年までの国際目標として定めたものです。

直訳すると「**持続可能な開発目標**」です。

① 貧困をなくそう ② 飢餓をゼロに ③ すべての人に健

康と福祉を 等の一七の目標が定められています。

⑬目の目標は「気候変動に具体的な対策を」が掲げられています。

そのことについて触れてみます。

地球温暖化が叫ばれてずいぶん時が流れました。人間を含めて動物や植物の生態に大きな影響を与えています。それが顕著に表れたのが、昨年秋に気象庁から発表された「生物季節観測」でした。一九五三年から開始していた「動植物の変化で季節の移り変わりを捉える生物季節観測の対象であった、植物三四種、動物二三種を、二〇二一年、すなわち今年から、植物を**六種**（全国に広く分布するアジサイ、ウメ、スキの開花やイチヨウやカエデの紅葉・落葉）のみ、**動物に至っては撤廃する**という内容でした。その背景には、地球温暖化等によって生態環境が変化して標本木の確保や動物の発見が困難になってきたことが挙げられます。

二〇一五年に国連で採択されてすでに五年が過ぎようとしている昨今、日本の「SDGs」達成度は世界一五位と決して良い方ではありません。ちなみに上位三カ国はデンマーク、スウェーデン、そして山村短大と縁がある**フィンランド**

と北欧の国が占めています。「SDGs」を一度達成したとしても、その後芳しくない状況が続けば意味がありません。

プラスチックごみが漂う「海洋汚染」

食べられるのに捨てられる「食品ロス」

「今できること」ではなく「今やるべきこと」を考えて行動することが求められているのです。

保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。ご卒業、本当におめでとうございます。

本年度はコロナウイルス感染拡大に明け暮れた年でした。学園祭を始め、クリスマス会等、数々の行事が中止に追い込まれました。しかし、本学では他大学では延々と遠隔授業が展開される中、三密を避け、消毒や換気に十分配慮しながら六月から対面授業を実施してきました。

卒業生の皆さん、「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこのキャンパスを愛し、この学園に学んで良かったと思える学園生活、本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」にあるように、人生にとってかけがえのない友をつくることができたこと、そして**東日本大震災やコロナウイルス**

発生のように何が起こるかわからない不透明な時代、皆さんは平成、令和へ、さらにその次の時代へと心を繋いで一層強くたくましく生きていって「今やるべきこと」を考えて行動してほしいと願っています。

今だコロナ感染が収束しない状況の中ですが、本日卒業証書授与式が挙行できたことに、万感迫る思いがいたします。

四季折々に美しい花を咲かせる自然豊かな本学、就職先や人生に行き詰ったときは、いつでも「ただいま」と言って来校するのを待っていることを約束して、式辞といたします。

令和三年三月十七日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口 一夫